



書田川妹柳好書  
六

立



~ 13  
3097  
6







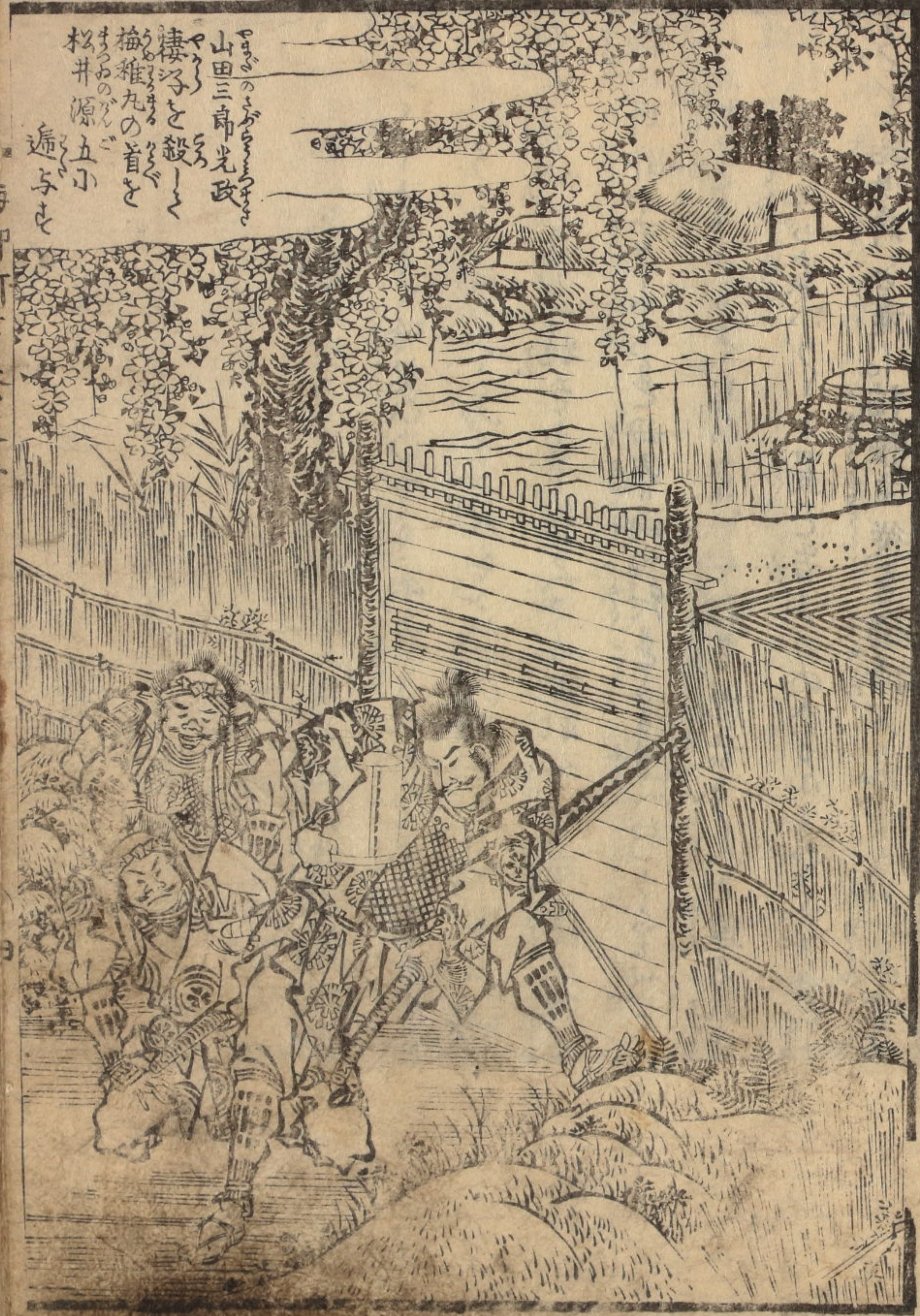




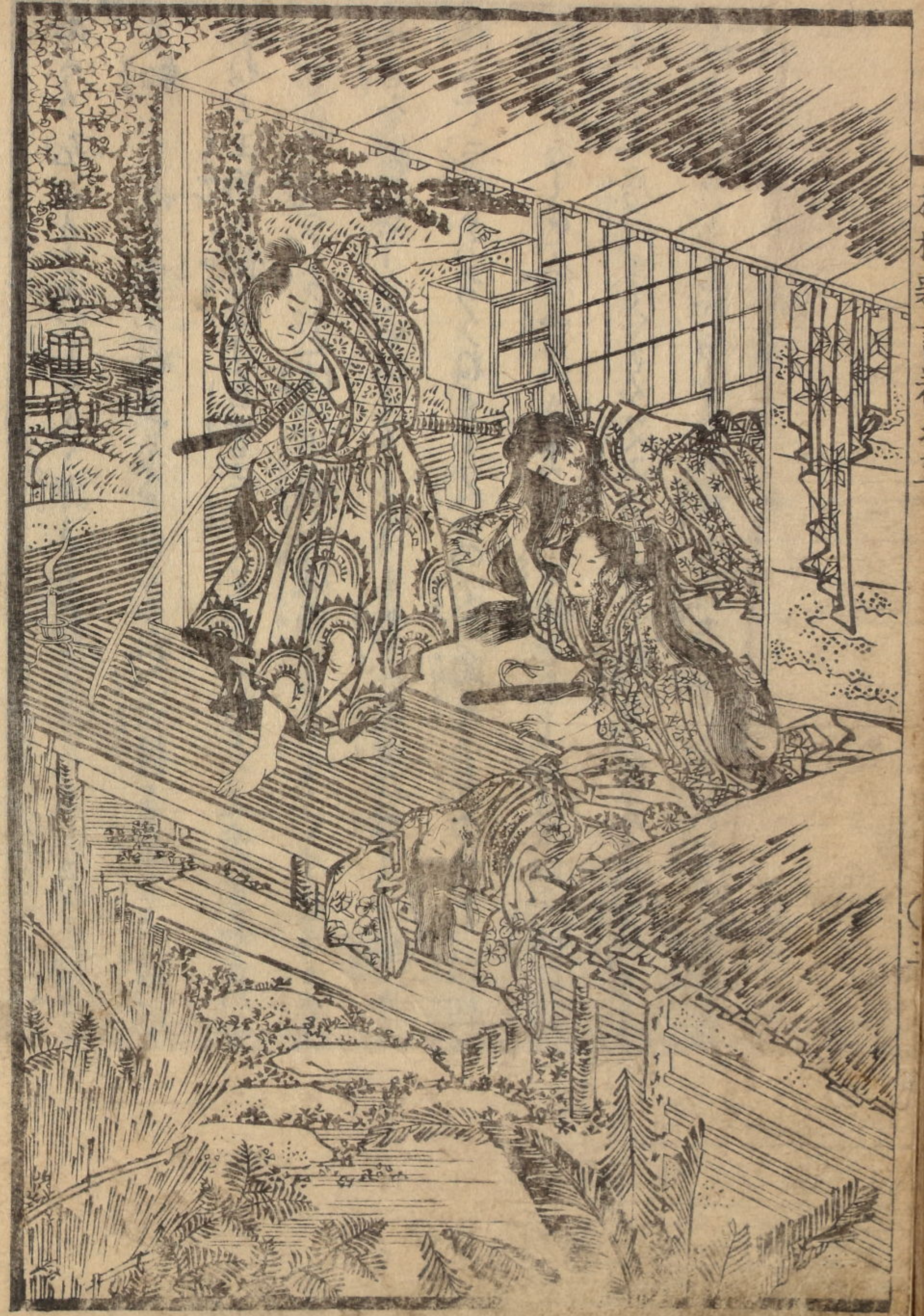








山田三郎光政  
妻を殺す  
梅雅丸の首を  
松井源五小  
遍ふと



本末業三郎光政











むろりふく。園子の外へ跳退ども。ほ疑の鮮ざりたり。そのと山田三郎の斑女  
 梅稚をゆゑ愛小請。又粟津六郎を招入と。そ小せめく千行の涙林禁す  
 ことあらど且し〜ゆとや。六郎いりも〜。斑女の前梅稚君も先政が若  
 肉の計の知り百さるべし。時〜もあれ今宵小至く。梅稚君も家小をゆるすを。  
 松井源五小あられ刺れれが〜厚澤野より斑女前を伴すの〜途〜。  
 源五が黨小予矢と〜。園を一旦その鏃を避ん為小彼がゆ所〜。従ひ  
 故〜斑女前を伴ひすの〜。家小歸るといひれど。奸智小園〜源五を  
 小〜。間謀者と〜。事の為体を張望と〜。中とゆひ〜。畏れれど  
 斑女の前と〜縛まり〜木の下小繫留滑り鳥崎をゆび〜。落〜。ま  
 わ〜。謀を相語れ〜。梅稚君志のひ〜。玉柳が卧房〜。ひ〜。こ  
 んをひ〜。又別室の方と〜。彼知〜。人〜。と〜。園窺〜。

これ又梅稚君ち〜。そ小ま〜。怪〜。斑女の前〜。鏡を照〜  
 月影小彼と是とと熟視〜。女鬼が房小〜。其の真の梅稚丸〜。  
 小〜。獸の形小〜。彼の妖怪〜。老精人小〜。此〜  
 後も志〜。形と露〜。幸〜。この妖怪の首を刎〜。  
 源五を欺〜。今宵の危籠を脱〜。と〜。斑女前を救ひ奉る小計  
 あり。〜。深く思〜。及〜。只鳥崎が身を殺〜。か〜。  
 んと〜。彼と〜。斑女前を別室小誘引〜。母の對面を  
 ち〜。〜。遠〜。園〜。妖怪を刺留〜。玉柳の縁故を去  
 ら〜。只顧叫び泣〜。後小鳥崎〜。来〜。偽り悲〜。諫〜。  
 ち〜。〜。あは〜。止〜。小燈火〜。滅〜。小紛れ  
 妻の首と妖怪の首を落〜。や〜。源五小遁〜。と〜。小鳥崎が









明鏡の徳とく  
 妖怪をやりや  
 勝久が勇  
 言ふ  
 意  
 者  
 間者  
 を



えつて。その名を記し。既小の成る火。識と附らり。めうとせほし。  
 彼薄今小のりやと。梅稚丸懐より。薄をとり。平尾の玉柳と写し。いふ。高坂の  
 ちめ小果。その中ほど。平尾の玉柳と写し。いふ。高坂の  
 懸想。彼を中。知く。その人小。妻。女児が房より。いふ。備今。賈  
 火急の難義。小あり。終小。玉柳の瓶の為。小け。光政  
 いくも。撃と。一車。両用。粟津六郎。珠更。小吉を  
 掉。賞。嘆。そのと。山田三郎。彼。明鏡を。妖怪の  
 軀を。照。梅稚丸と。忽。年老。瓶と。妻。血。塗。斃  
 玉柳。は。絆。断。死。河。呀。と。吐。び。頭を  
 握。今。一件の物。が。り。小。夢。の。ど。く。小。す。作。り。と。も。が。り。小。吉。の。幸。を。さ

る。これ。父の。慈悲。を。成。した。女の。親。を。罵。り。不。孝  
 の。罪。の。り。と。あ。り。や。の。身。成。け。と。も。瓶。を。房。に。誘。引。し。女。子。と。人。小  
 り。と。さ。ぶ。ら。取。り。と。べ。た。小。今。死。と。さ。ぶ。ら。と。婿。と。れ。父。の。顔。の。と。れ。い  
 る。は。軀。の。小。を。と。本。の。あり。と。れ。と。は。ま。り。首。の。仇。の。小。遍。り。  
 今。般。小。死。顔。も。あ。り。と。れ。を。講。と。も。と。れ。梅。稚。君。と。れ。後。小  
 一。遍。の。回。向。を。と。り。ひ。う。け。と。率。然。と。息。絶。と。り。悲。歎。小。時。刻。也。後。り  
 天。も。明。雁。首。と。り。と。栗。津。六。郎。椽。つ。小。吉。出。と。り。星。の。光。を。と。り。膽。壁。  
 源。五。が。ゆ。の。れ。と。り。光。政。走。り。り。と。首。を。と。り。刀。の。鮮。血。を。押。拭  
 へ。と。り。小。鞆。と。り。勝。久。が。眼。力。手。煉。の。勝。と。り。と。稱。と。り。己。と。栗。津。六。郎







る程小栗津六郎の路五七町追ひに。忽ち被荒男と云う。あひ顔小  
鳥燥く。木の蔭最の中。さびく物のむららむ。たかりやちく。索ゆる  
小終小逢と。斑女前のひも。又らむ。と。あ。れ。り。か。が。く。鶯の路。ま。ら。む。と。り。遺  
ぬ。ら。む。と。え。く。松梅の鏡草の細の上。よ。ら。む。と。の。入。り。や。む。と。り。さ。ふ。と。ま。  
ま。く。勝。く。さ。び。く。ひ。ま。ら。む。す。れ。ど。野。野。の。ま。ま。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。  
山田三郎。う。ら。む。と。の。を。想。い。妻。子。を。殺。し。救。ひ。ま。り。し。主。君。を。え。れ。忽。ち  
了。棄。と。す。け。の。面。目。の。あ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
或。は。鶯。の。或。は。救。ひ。具。と。し。り。く。ま。ら。む。斑。女。梅。稚。の。山。田。三。郎。鳥。崎。王。柳。が  
る。あ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
る。あ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。

忠義を全むるこのやうにと。い。え。今。て。小。及。ぶ。お。も。さ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
を。洋。し。故。か。う。い。も。さ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
く。や。か。ど。松。稚。す。く。あ。ら。む。愁。ひ。光。政。一。家。の。忠。義。小。よ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
ぬ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
べ。く。救。ひ。の。救。め。べ。く。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
これ。い。ら。む。厚。比。敷。の。辻。と。り。源。五。が。徒。小。終。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
め。れ。小。救。と。母。と。梅。稚。の。行。方。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
一。ぬ。の。栗。津。六。郎。の。只。願。小。嘆。賞。し。の。見。し。く。彼。女。弟。あ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
ち。る。義。士。烈。女。あ。ら。む。今。情。由。を。さ。ら。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。  
ま。く。恩。を。稟。く。因。心。を。救。む。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。と。り。さ。ふ。と。ま。

海印所書

一





栗津の  
六島越の  
曠野  
梅稚丸を棄て  
去られ班女前と  
えりき自殺せんと  
す  
松推軍ゆめあり

毎卯月廿五日



木村三郎







うけて枕掻くも長やふらふら臥せぬ梅稚丸の敢固辞ゆらぐ。彼女童の居潜  
 然と後居ると目とめくくとのらとまう。諸とむ小あつと後方小ま廻り  
 たのげらるる膝の上小摠太むら毛勝と載て白く細やうううあうあうあらら  
 と打ぬの鳴乎痛くたうる。そのの金の屋雞障の下小養もて。蓮府槐門  
 の貴族を友とく。その村落茅舎の中小とられて。田夫野人の奴隷とる  
 珠玉と泥中小投る。まを光を裏も。黄金を破の底小交る。人小まう  
 せんのと悔も是とく堪忍ひぬのたところの中と哀れうと摠太のいと  
 とうと。足をめく梅稚と撲地と蹴とや。又女童をも蹴とめく。と  
 るの身と起。はの物の用とめぬ奴わ。捺とこり。蟻の支の度とる  
 かう捺と打と。鶴の雛の銜とく。小のく。さうも。さう疲骨と  
 さうと。目睡と。はの。これ今二曲を



世

